令和７年度学校評価計画書　　学校名（宮島小・中学校）

評価計画					自己評価					学校運営協議会 委員評価コメント	改善方策
中期経営目標 (めざす児童生徒像)	短期経営目標 (めざす児童生徒像)	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標値	中間 8月	最終 2月	達成度	評価	結果と課題の分析		
小中一貫教育のよさを最大限に生かす学校運営	◎4・3・2制のメリットを生かして、9年間で育てる。	コミュニケーション能力(助け合い・認め合い・支え合い)を育成するために、ブロック活動を充実させる。	「ブロック目標を達成することができた。」と答えた学園生の割合(4・7・9年) 「ブロック目標を達成しようと意識することができた。」と答えた学園生の割合 (1・2・3・5・6・8年)	85%	【前期】 89.7% 【中期】 95.1% 【後期】 78.5%		【前期】 106% 【中期】 112% 【後期】 92%	【前期】 A 【中期】 A 【後期】 B	【前期】 ・上級生にあこがれをもち、4年生は役に立てた喜びを実感した。 ・表現活動を行う際には、「下級生にわかるように」という視点をもって表現することができていた。 ・助け合い場面に児童が気付くことができるように教職員から声掛けをしたが、今後の取組として帰りの会等で、児童相互の振り返りを大事にしていく必要がある。 【中期】 ・「なるほど」タイムを実施し、相手の意見に対して反応するよう意識づけをすることができた。一方で「なるほど」タイム以外での意識づけができなかったので、授業の中でも声かけをしていく必要がある。加えて「なるほど」を引き出すような表現のし方についても考えていく必要がある。 【後期】 ・1学期の行事や学習活動を通じて、友達の良さに気がついたり、お互いに協力して行動したりすることができている。 ・アンケート結果から、自分について自信が持てていない生徒が多いことが分かった。引き続き、目標に対する振り返りの場を設定したり、肯定的な声かけをしたりすることで生徒自身に自己の成長に気付かせたい。		
			課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査生徒質問紙)	85%	78.2%		92%	B	・6年生は 84.1%、9年生は 72.2%が肯定的な回答をした。「あてはまらない」と回答した6年生は0名、9年生は1名であった。 引き続き、「主体的・協働的に課題を解決する児童生徒の育成」という本校の研究主題に基づき、授業改善をすすめていく必要がある。		
地域の財産(歴史、文化、自然)を学ぶ教育体系の確立	◎自己の将来、宮島の将来を考える力を育てる。	主体的・協働的に課題を解決していける児童生徒の育成を目指し、対話を通して考えを深めさせ、自分の考えを表現できる力を育てるための校内研究の充実を図る。	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」と答えた学園生の割合	83%	86.2%		104%	A	・自分が考えたことをペアで話合わせたり、学級全体で共有したりする活動を取り入れた。 ・教科等でペアトークをする際の手順を示し、一往復の対話(聞いたあと反応する)ができるようにした。ペアを変えながら好きな場面とその理由を話すことができた。友だちの考えを知りたいという状況をつくることができた。 一方で、話し合いのマンネリ化がやや見られ、書いたことをただ言うだけの活動になってしまっていることが課題である。		
			「自分の考えを周りの人へわかりやすく伝えようとしている。」と答えた学園生の割合	83%	89.5%		108%	A			
多様な学園生の育ちの場の提供	基本的な生活習慣(あいさつ)の確立をさせる。	発達段階に応じた行動目標を児童生徒に提示し、その姿を日々評価する。	「あいさつは、自分から進んでします。」と答えている学園生の割合	90%	89.9%		100%	A	・あいさつ運動を全学年で実施することができたが、事前にねらいや日程等を丁寧に伝えておく必要があった。あいさつ運動が、朝、校門の前に立ってあいさつするだけのものにとどまらないよう、今後いろいろな取組が必要である。 ・安心できる場を確保できるよう、状況に応じて教室の使い方を工夫するなどの対応をとることができた。 ・縦割り班活動ではリーダーを中心に、掃除のやり方を教える等、良い関わりが多く見られている。		
	多様な価値を受け入れ、認め合える集団をつくる。	学園生の特性に応じた支援について外部の専門家と意見交換し、内容や支援方針を全教職員で共通理解する。	「宮島学園は、安心して過ごすことができる学校です。」と感じている学園生の割合	90%	94.3%		105%	A			
ワークライフバランスのとれた元気な職場	目的やスケジュールを意識することで、組織的な取組を実施する。	目標達成に向け、行事のスケジュールを意識し企画運営委員会、分掌会及びブロック会を計画的に実施し、状況を共有する。	タイムマネジメントを意識することで、「子どもと向き合う時間が確保できている」と感じている教職員の割合	70%	68.2%		97%	B	・目標値を達成することができなかったが、職場には互いに助け合おうとするよい雰囲気があると感じられる。 ・タイムマネジメントをより意識し、スムーズに業務を遂行できるよう、適切にスケジュール管理をしていく必要があるが、きめ細やかさに欠ける面があり、急遽、スケジュールを変更することがあった。		
			「宮島学園で働いてよかった」と感じている教職員の割合	90%	87.5%		97%	B			

※　この様式はあくまでも「参考様式」であり、これに示した項目が反映されていれば別様式でもよい。ただし、次の５点には十分留意すること。

- ○　短期経営目標のうち、本年度の重点目標については、◎印で示し、◎印は全体を通して３項目以内とする。
- ○　重点目標を中心に「評価項目・指標」（めざす姿）を精選し、取組を進めること。
- ○　別途提示している「廿日市市学校評価共通項目」が「評価項目・指標」に含まれていることを確認すること。（【市共通項目】⇒第３期廿日市市教育振興基本計画「確かな学力を育む教育の推進」）
- ○　「不登校児童生徒が〇人以内」等逆転項目の評価については、２～４段階で評価できるよう学校で定める。